

全国 保健師長会 だより

平成29年度第39回 全国保健師長会代議員総会報告

全国保健師長会 会長 青柳 玲子

平成29年11月18日(土)に、新潟県新潟市において第39回代議員総会が開催されました。冒頭、青柳玲子会長から「あらゆる世代や健康レベルの方が安心して健やかに暮らせるまちづくりをめざし、保健・医療・福祉にとどまらず、産業、教育分野など関係機関との連携を強化し、PDCAサイクルに基づいた主体的な公衆衛生看護活動を展開することが重要であること、平成30年度に40周年を迎えることから、公衆衛生看護活動の使命を会員と確認・共有し、『保健師活動の原点から住民とともに創る未来』をめざし、全国の保健師のつながりを強化していく」とのあいさつがありました。

全国保健師長会会長の宇田英典氏、公益社団法人日本看護協会会長代理専務理事の井伊久美子氏から全国保健師長会への期待を込めたメッセージを頂きました。

基調講演

基調講演では、「『みる』『つなぐ』『動かす』公衆衛生看護活動をめざす」今の時代に求められる保健師活動の可視化とは」と題して、北海道大学大学院保健科学研究教授の佐伯和子氏よりご講演いただきました。社会の変化に伴い、保健師活動も変化していくものの、公衆衛生看護活動のコアとして「活動の理念と対象」「保健医療福祉分野の技術者であること」は不変のコアであること。また、保健師の社会での認知については、

直接的ケアから間接的な業務への移行により、見えにくさがあることから、保健師の担うマネジメント機能や調整機能の黒子としての役割の見える化が必要であることについて話されました。

また、公金を使つての活動であることから、活動の成果を住民へわかりやすく伝えることに、責任があること、さらに所属内での報告は住民の代弁者としての役割があると説明されました。活動の可視化に向け、リーダーへの期待については、若い人が仕事が面白いと思える職場づくり、スタッフが可視化に向けて、その「面白い」をまとめようとするこへのサポート、さらには住民の健康を守り育てるための、夢と戦略がもてるようになりリーダーのビジョンを示すこと、看護職としての強みが重要であると話されました。

引き続き、「『みる』『つなぐ』『動かす』公衆衛生看護活動をめざす」今の時代に求められる保健師活動の可視化とは」と題して、県と新潟大学大学院保健学研究科教授の小林恵子氏を座長に、3人のシンポジストから発表がありました。

まず、長野県健康福祉部健康増進課副参事兼課長補佐の田中ゆう子氏から県保健所の立場で取り組んでいる「世界一の健康長寿を目指す信州ACE(エース)プロジェクト」と題して発表があり、県として三大死因や死亡率、医療費の現状等の分析から、脳卒中や心疾患の原因となる高血圧、肥満、糖尿病などを予防するための食生活や運動等の生活習慣の改善に取り組むことが重要と位置づけられました。そして健康長寿をめざすために、脳卒中等の生活習慣病予防に効果のある「Action」=体を動か

シンポジウム

先生のお話は、私たちの内面にある保健師魂を揺さぶられるような内容で、すぐに実行したいという気持ちを掻き立てられました。

先生のお話は、私たちの内面にある保健師魂を揺さぶられるような内容で、すぐに実行したいという気持ちを掻き立てられました。

す「Check」=健診を受ける」「Eat」=健康に食べる」を三本柱にした県民運動の展開ができるようにさまざまな仕掛けをしています。たとえば「Action」では、「当地体操のコンテストの開催」「Check」では、保険者協議会とタイアップした健診受診の促進キャンペーン、「Eat」では、コンビニやスーパー、飲食店等との連携による健康に配慮したメニューの提供などです。これらの取り組みを浸透・成功させるための情報発信と県内市町村の健康づくりの取り組みが推進されるよう支援しているとまとめられました。

次に政令指定都市の立場から、新潟市西蒲区役所健康福祉課健康

増進係長の川崎恭子氏が「健康寿命の延伸に向けた取り組み」と題して、西蒲区で行っている「いしかん健康プロジェクト」の詳細について報告がありました。西蒲区では、健康教育や集団ミニドック健診の実施など、多様なアプローチによる健康意識の向上をめざしています。また、西蒲区の生活の特徴を考慮した、栄養と運動普及のためのオリジナルパンフレットを作成しました。これらは、保健師だけでなく、他の専門職と地区の健康課題を共有し、話し合いを重ねて同じ方向を見て、一緒に取り組むことができるように配慮していきたいとのことでした。

会場からの質疑も活発に行われ、健康寿命の延伸に関するものでは、「国保担当課との役割分担はどのようにしたのか?」「取り組み後の評価、効果はどのようにしていくのか?」、自殺予防の取り組みでは、「個別支援に役立つノウハウがあれば教えてほしい」などが出されました。

総会

午後の総会では、提案された議案はすべて承認されました。平成30年度の活動テーマは、「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」みる・つなぐ・動かす「保健師の原点から住民とともに創る未来」です。活動方針としては、1. 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化 2. ブロック、支部活動の強化 3. 各自治体における災害時対策の取り組みの促進と被災地における保健師活動の発信 4. 会員数の拡大となりました。

最後に次期開催県である愛知県支部長の水野貴美子氏から「40周年という節目に愛知県で開催することに喜びと責任を感じていきたい」とのあいさつがあり閉会となりました。



北海道大学大学院・佐伯教授の基調講演



シンポジウムで発言する、長野県健康福祉部・田中氏



総会であいさつをする全国保健師長会・青柳会長

シンポジストの報告後、座長の小林教授より、保健師活動は見えにくいところがたくさんあるが、住民が必要なきに保健師を活用できるように、可視化をしなければいけないこと、日ごろから見えないことを意識しながら活動